

## 器官・臓器の発生

(Fetal Development of Organs)

### 【責任者/担当者】

〔解剖学 細胞生物部門〕 八木 秀司 主任教授

### 【目的】

先天異常のもたらされる機序について類推できる様になるため、個体と器官が形成される発生過程を理解する。

### 【科目キーワード】

「胚子形成 (embryogenesis)」「器官形成 (organogenesis)」「先天異常 (congenital malformation)」

### 【到達目標(アウトカム)】

- 配偶子の形成から出生に至る一連の経過と胚形成の全体像、胚内体腔の形成過程について概要を説明できる。
- 体節の形成と分化、咽頭弓・咽頭嚢(鰓弓・鰓嚢)の分化、頭・頸部と顔面・口腔の形成過程について説明できる。
- 体幹と四肢の骨格と筋、心血管系、泌尿生殖器系各器官の形成過程について説明できる。
- 消化・呼吸器系各器官の形成過程について説明できる。
- 神経管の分化と脳、脊髄、視覚器、平衡聴覚器と自律神経系、皮膚の形成過程について説明できる。

### 【ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連】

- ・様々な病気や障がいを知っている。
- ・自己管理能力を身に付け、自ら学修できる。
- ・人体構造・機能を理解している。
- ・疾患につながる病態生理の基本を理解している。

### 【概要ならびに履修方法】

講義のみで構成される。

### 【準備学修ならびに事後学修に要する時間】

「ラングマン人体発生学」の講義予定部分を事前に読むこと(約 1 時間)。

### 【成績の評価方法・基準】

定期試験(約 95%)と講義の出席と態度(約 5%)により評価する。

**【学生への助言】**

特になし

**【フィードバック方針】**

定期試験の結果に関して、個別に答案を開示する。

**【オフィスアワー】**

講義期間中は人体解剖実習中のため、オフィスアワーを設けることができない。質問等は適宜受け付けるので、解剖学細胞生物部門(教育研究棟 9 階)を訪ねること。

**【受講のルール、注意事項、その他】**

特になし

**【教科書】**

「ラングマン人体発生学(第 11 版)」 T.W.Sadler 著 安田峯生、他 訳  
(メディカル・サイエンス・インターナショナル)2016 年

**【参考書】**

「The Developing Human: Clinically Oriented Embryology(11th ed)」  
Keith L. Moore、他 著(Elsevier Saunders)2019 年  
「生命進化の偉大なる奇跡」アリス・ロバーツ 著 齊藤隆央 訳(学研プラス)2017 年  
「Langman's Medical Embryology (14th ed)」 T.W.Sadlery 著(Wolters Kluwer) 2019 年

**【連絡先】**

教育研究棟 9 階 解剖学 細胞生物部門 セミナー室